

## 2015 年度 所員業績リスト

### ■ 浅野倫子

<論文> 査読あり

Nagai, J., Yokosawa, K., & Asano, M. (2016). Biases and regularities of grapheme-color associations in Japanese non-synesthetic population. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, **69**, 11-23.

Yokosawa, K., Schloss, K. B., Asano, M., & Palmer, S. E. (in press). Ecological effects in cross-cultural differences between US and Japanese color preferences. *Cognitive Science*.

<学会等での発表>

Yokosawa, K., & Asano, M. Relation between synesthetic grapheme-color associations and the sub-types of synesthesia. Vision Sciences Society (VSS) Meeting, 23.4060 (2015 年 5 月, St. Pete Beach, USA). (査読あり)

今井むつみ・佐治伸郎・浅野倫子・大石みどり・岡田浩之. 記号の意味はシステムの中で生まれる. 第 29 回人工知能学会全国大会, 2D3-OS-12b オーガナイズドセッション「OS-12 記号創発ロボティクス (2)」 (2015 年 5-6 月, はこだて未来大学). (査読あり, 話題提供).

浅野倫子. 色字共感覚：特徴の結びつけ過程と個人差の検討. 生理学研究所研究会「視知覚の現象・機能・メカニズム — 生理学的、心理物理学的、計算論的アプローチ」 (2015 年 6 月, 生理学研究所). (依頼講演)

Saji, N., Asano, M., Oishi, M. & Imai, M. How do children construct the color lexicon?: Restructuring the domain as a connected system. In D. C. Noelle, R. Dale, A. S. Warlaumont, J. Yoshimi, T. Matlock, C.D. Jennings, & P. P. Maglio (Eds.), Proceedings of the 37th Annual Conference of the Cognitive Science Society (pp. 2080-2085). Austin, TX: Cognitive Science Society (2015 年 7 月, Pasadena, USA). (査読あり, 口頭発表)

浅野倫子・高橋聡一郎・横澤一彦. 抽象語漢字の共感覚色の規定因. 日本心理学会第 79 回大会, 2AM-067 (2015 年 9 月, 名古屋国際会議場). (査読なし)

Yokosawa, K., Harada, M. & Asano, M. Effect of labeling colors before rating the color preferences. 56th Annual Meeting of the Psychonomic Society, 3006 (2015 年 11 月, Chicago, USA). (査読あり)

Asano, M., Takahashi, S., & Yokosawa, K. Influence of meaning on synesthetic color choice for Japanese Kanji characters with abstract meanings. 56th Annual Meeting of the Psychonomic Society, 4007 (2015 年 11 月, Chicago, USA). (査読あり)

浅野倫子・原田真帆・横澤一彦. 色に対する命名が色彩嗜好に及ぼす影響. 日本基礎心

理学会第 34 回大会, 1AM-04 (2015 年 11 月, 大阪樟蔭女子大学). (査読なし)

永井淳一・横澤一彦・浅野倫子. アルファベットの色：日本人非共感覚者における英文字と色の対応関係. 日本基礎心理学会第 34 回大会, 1AM-05 (2015 年 11 月, 大阪樟蔭女子大学). (査読なし)

## ■江川隆男

### <論文>

江川隆男「脱様相と無様相」(『現代思想』、青土社、2015 年 6 月号、pp.214-223)

江川隆男「(脱様相)のアナーキズム」(『HAPAX』第 4 号、夜光社、2015 年 7 月、pp.69-77)

江川隆男「ディアグラムと身体—図表論的思考の系譜について」(『ドゥルーズ・知覚・イメージ』宇野邦一編、せりか書房、2015 年 7 月、pp.174-191)

江川隆男「デヴィッド・リンチと様相なき世界」(『日本病跡学雑誌』第 60 号、日本病跡学会、2015 年 12 月、pp.15-23)

### <対談>

江川隆男、堀千晶(早稲田大学)「絶対的脱領土化の思考」(『ドゥルーズ没後 20 年 新たな転回』所収、河出書房新社、2015 年 10 月、pp.144-160)

### <書評>

江川隆男「『ジル・ドゥルーズの「アベセダール」』(KADOKAWA)を読む」(『図書新聞』第 3233 号、図書新聞、2015 年 12 月 5 日、2 面)

### <エッセイ>

江川隆男「特性のない音楽—キング・クリムゾンの欲望」(『文藝別冊 キング・クリムゾン二十一世紀的異常音楽の宮殿』所収、河出書房新社、2015 年 7 月、pp.166-169)

江川隆男「〈美の形相〉と〈錯乱の論理〉」(『文藝別冊 イエス—プログレッシブ・ロックの奇蹟』所収、河出書房新社、2016 年 2 月、pp.180-183)

### <講演>

江川隆男「デヴィッド・リンチと様相なき世界」(「特別企画 強度イメージ—デヴィッド・リンチ解剖」日本病跡学会総会(第 62 回)、2015 年 6 月 27 日、於・立教大学新座キャンパス)

江川隆男「ジル・ドゥルーズの基本概念について」(「ドゥルーズ没後 20 年 反時代的な未来のために」、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム、2015 年 11 月 23 日、於・早稲田大学)

江川隆男「問いと倫理学」（東京都立高等学校公民科「倫理」・「現代社会」研究会・平成 27 年度第三回研究例会、2016 年 2 月 15 日、於・東京都立西高等学校）

<シンポジウム>

宇野邦一（司会）、江川隆男、河本英夫（東洋大学）、齋藤環（筑波大学）（「特別企画 強度イメージ——デヴィッド・リンチ解剖」日本病跡学会総会（第 62 回）、2015 年 6 月 27 日、於・立教大学新座キャンパス）

藤田一勇（司会・早稲田大学）、宇野邦一、江川隆男、鈴木泉（東京大学）（「ドゥルーズ没後 20 年 反時代的な未来のために」、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム、2015 年 11 月 23 日、於・早稲田大学）

澤田直（司会）、宇野邦一、江川隆男、杉原賢彦（「マルグリット・デュラス—映像の彼方へ」、立教大学現代心理学部、2016 年 3 月 6 日、於・立教大学）

■江口正登

<論文>（査読有り）

江口正登（2016）「ジョン・ジェスラン『ファイアフォール』のアクシデント」、『西洋比較演劇研究』第 15 巻第 1 号、日本演劇学会分科会西洋比較演劇研究会、19-32 頁、2016 年 3 月。

<共同討議>

森山直人・武藤大祐・田中均・江口正登（2016）「パフォーマンスの場はどこにあるのか」、『表象』第 10 号、表象文化論学会、142-182 頁、2016 年 3 月。

<翻訳>

宇波拓・江口正登（共訳）（2015）、エヴァン・カルダー・ウィリアムズ「終わりなき終わり 恐慌時代のカタストロフ映画」、『シネ砦』、ソリレス書店、164-175 頁、2015 年 11 月。

宇波拓・江口正登（共訳）（2015）、ユージン・サッカー「ダーク・メディア」、『シネ砦』、ソリレス書店、176-181 頁、2015 年 11 月。

<その他>

木村元・小林えみ・櫻井拓（聞き手：柿並良佑・池野絢子・江口正登）（2015）、「座談会 アートと思想と批評をめぐる出版の可能性」、表象文化論学会ニューズレター『REPRE』第 24 号、URL：<http://repre.org/repre/vol24/special/roundtable/?1>、2015 年 5 月。

■芳賀繁

<雑誌論文>

- 大谷華・芳賀繁 (2016). 安全行動における職業的自尊心の役割：計画行動理論を用いた職業的自尊心-安全行動意思モデルの開発, 産業・組織心理学研究, 第 29 巻第 2 号, pp.87-101. (2016 年 2 月) (査読有)
- 芳賀繁 (2016). しなやかな現場力とこれからの安全, 安全と健康, 2016 年 1 月号, pp.24-27. (2016 年 1 月) (査読無)

<学会発表>

- 芳賀繁 (2015). 自動化システムとドライバの心理, 自動車技術, Vol.69, pp.86-89. (2015 年 12 月) (査読無)
- Haga, S., Sano, A., Sekine, Y., Sato, H., Yamaguchi, S., and Masuda, K. (2015). Effects of using a smart phone on pedestrians' attention and walking, *Procedia Manufacturing*, Volume 3, 2574-2580. (Presented at the 6th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics and the Affiliated Conferences, Las Vegas, NV., USA, July, 2015) (査読有 DOI: 10.1016/j.promfg.2015.07.564)
- Sato, H., Oya, H., Sekine, Y., Yamaguchi, S., Ohshima, R., Hirokawa, K., and Haga, S. (2015). Factors affecting pedestrians' risk behavior, *The 14th European Congress of Psychology*, Milan, Italy. (2015 年 7 月 29 日 ミラノ, イタリア) (査読有)
- Oya, H., and Haga, S. (2015). The motivation of workmanship-innovation enhanced by occupational pride results in an active attitude to carry out safety actions, *The 6th Symposium on Resilience Engineering*, Lisbon, Resilience Engineering Association. (2015 年 6 月 24 日 リスボン, ポルトガル) (査読有)
- 芳賀繁 (2015). しなやかな現場力を支える安全マネジメント, 化学工学会第 81 回年会, 産業セッション講演発表要旨集, p.31, 2016. (2016 年 3 月 15 日 高槻市) (査読無)
- 廣川佳子・宮崎弦太・芳賀繁 (2015). 経営理念浸透尺度作成の試み—尺度の信頼性と妥当性の検討—, 産業・組織心理学会第 31 回大会発表論文集, pp.69-72. (2015 年 8 月 29 日 東京) (査読無)
- 大嶋玲未・宮崎弦太・芳賀繁 (2015). 組織成員の主要 5 因子性格が組織市民行動に及ぼす影響における政治スキルの媒介効果, 産業・組織心理学会第 31 回大会発表論文集, pp.81-84. (2015 年 8 月 29 日 東京) (査読無)

■日高聡太

<論文> (査読有)

- Hidaka, S., Teramoto, W., and Sugita, Y. (2015) Spatiotemporal processing in crossmodal

interactions for perception of the external world: A review. *Frontiers in Integrative Neuroscience*, 9, 62.

Hidaka, S., and Ide, M. (2015) Sound can suppress visual perception. *Scientific Reports*, 5, 10483.

池田華子・田中智明・石山智弘・日高聡太・宮崎弦太 (2015) 超高精細映像とハイビジョン映像から生じる感性的印象の比較. *日本感性工学会論文誌*, 14, 369-379.

<学会発表> (国際学会)

Omi, T., Teramoto, W., Higuchi, S., Hidaka, S., and Sugita, Y. Shared and different neural mechanisms in sound-induced visual motion perception and visual apparent motion perception. *Society for Neuroscience 2015 (October, 20, 2015, Chicago)*

<学会発表> (国内学会)

日高聡太, 井手正和. 音によって生じる視知覚の抑制. *日本基礎心理学会第 34 回大会 (2015 年 11 月 29 日, 大阪樟蔭女子大学)*

池田華子, 田中智明, 日高聡太, 石山智弘, 宮崎弦太. 動画像の解像度, 撮影対象, 提示方法が感性的印象へ及ぼす影響. *日本認知心理学会第 13 回大会 (2015 年 7 月 5 日, 東京大学)*

## ■香山リカ

<著書>

香山リカ(2015). 半知性主義でいこう, 朝日新聞出版,全 192 頁

香山リカ, マーク・ウィンチェスター, 青木 陽子&5 名(2015). ヒューマンライツ～人権をめぐる旅へ,ころから,全 152 頁

香山リカ(2015). がちナショナリズム―「愛国者」たちの不安の正体,筑摩書房,全 192 頁

香山リカ(2015). うつになる職場ならない職場,にんげん出版,全 200 頁

香山リカ(2015). マインドフルネス最前線,サンガ,全 291 頁

香山リカ(2015). 執着 生きづらさの正体, 集英社クリエイティブ,全 232 頁

金慶珠, 香山リカ(2015). 叩かれ女の正論, イースト・プレス,全 192 頁

香山リカ, 溝口紀子, 内田隆三,他(2015). オリンピックが生み出す愛国心,かもがわ出版, 全 272 頁

小林よしのり, 香山リカ(2015). 対決対談! 「アイヌ論争」とヘイトスピーチ,創出版, 全 80 頁

香山リカ(2015). 振り回されない生き方,KADOKAWA/中経出版,全 224 頁

香山リカ(2015). テロリストの心理戦術,ベストセラーズ,全 192 頁

香山リカ, 小鷹昌明(2015). ドクター小鷹、どうして南相馬に行ったんですか?, 七つ森書館,全 215 頁

<著書以外の著作>

香山リカ,他 23 名(2015). 現代思想 2015 年 10 月臨時増刊号 総特集◎安保法案を問う, 青土社,全 229 頁

黒柳徹子, 徳永進, 中川翔子, 香山リカ&18 名(2015). 世界を平和にするためのささやかな提案 (14 歳の世渡り術),河出書房新社,全 160 頁

アルボムッレ・スマナサーラ,香山リカ&10 名(2015). サンガジャパン Vol.20,サンガ,全 338 頁

香山リカ(2015). 大法輪,大法輪閣,全 236 頁

<学会発表>

香山リカ. ヘイトスピーチの精神病理—パラフレニーの視点から, 日本精神病理学会第 38 回大会, (2015 年 10 月 9 日, 今池ガスビル)

香山リカ. "健全な墮落"と"病的な墮落",第 15 回日本外来精神医療学会, (2015 年 7 月 5 日, 明治学院大学)

香山リカ. ストレスとの上手なつき合い方,第 111 回日本精神神経学会学術総会,(2015 年 6 月 6 日, 大阪国際会議場)

香山リカ. 私らしくしなやかに生きるために,第 6 回国際ウィメンズメンタルヘルス学会,(2015 年 3 月 21 日, 跡見学園女子大学)

#### ■宮崎弦太

<論文>査読あり

Mukai, S., & Miyazaki, G. (2015). Factorial invariance in evaluation of impressions between fonts and package designs using structural equation modeling. *Bulletin of Japanese Society for the Science of Design*, 61, 107-110.

池田華子・田中智明・石山智弘・日高聡太・宮崎弦太 (2015) 超高精細映像とハイビジョン映像から生じる感性的印象の比較 日本感性工学会論文誌, 14, 369-379.

宮崎弦太 (2015) 関係相手の応答性に応じた共同規範の調節—愛着不安による調整効果— 実験社会心理学研究, 55, 60-70.

廣川佳子・大嶋玲未・宮崎弦太・芳賀繁 (2016) 大学生の社会人基礎力における因子不変性の検討 立教大学心理学研究, 58, 1-11.

宮崎弦太・池上知子 (2016) 友人関係への依存度と拒絶のサインへの鋭敏性—共同規範

と交換規範による差異の検討— 立教大学心理学研究, 58, 23-37.

池田華子・田中智明・日高聡太・石山智弘・宮崎弦太 (印刷中) 動画像の解像度の違いが感性的印象へ及ぼす影響—撮影対象と提示方法に着目して— 認知科学

大嶋玲未・宮崎弦太・芳賀繁 (印刷中) セルフ・モニタリングが組織内政治の知覚およびスキルに及ぼす影響:セルフ・モニタリングの二次元性に注目して パーソナリティ研究

<学会発表>

池田華子・田中智明・日高聡太・石山智弘・宮崎弦太 (2015) 動画の解像度、撮影対象、提示方法が感性的印象へ及ぼす影響 第13回認知心理学会 (於東京大学, 2015年7月5日)

Miyazaki, G. (2015) When exchange norms promote commitment in close relationships: The moderating effects of the costs of relationship loss and the risk of partner unresponsiveness. Poster presented at the 11<sup>th</sup> Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology and PAP 52<sup>nd</sup> Annual Convention (Cebu City, Republic of the Philippines, 2015年8月20日)

廣川佳子・宮崎弦太・芳賀繁 (2015) 経営理念浸透尺度作成の試み—尺度の信頼性と妥当性の検討— 産業・組織心理学会第31回全国大会 (於明治大学, 2015年8月29日)

大嶋玲未・宮崎弦太・芳賀繁 (2015) 組織成員の主要5因子性格が組織市民行動に及ぼす影響における政治スキルの媒介効果 産業・組織心理学会第31回全国大会 (於明治大学, 2015年8月29日)

大嶋玲未・宮崎弦太・芳賀繁 (2015) セルフ・モニタリングが組織内政治の知覚およびスキルに及ぼす影響 日本心理学会第79回大会 (於名古屋国際会議場, 2015年9月23日)

佐伯大輔・宮崎弦太・矢田尚也・池上知子 (2015) 都市生活環境価値尺度の開発 日本心理学会第79回大会 (於名古屋国際会議場, 2015年9月23日)

宮崎弦太 (2015) 親密関係における共同規範と交換規範の優位性の調整—非応答性リスクと関係喪失コストの相乗的な影響— 日本社会心理学会第56回大会 (於東京女子大学, 2015年10月31日)

■中村秀之

<図書・章分担執筆>

中村秀之 (2015) 「黒澤明——アメリカとの出会いそこない」、栗原彬・吉見俊哉編『敗戦と占領』(「ひとびとの精神史」第1巻 1940年代)、岩波書店、全333頁、担当

箇所 149-174 頁、2015 年 7 月

<論文>

中村秀之 (2016) 「ヒッチコック的 3D——『裏窓』(1954) と『めまい』(1958) における接触と情動」、『立教映像身体学研究』4 号、83-102 頁、2016 年 3 月 (査読なし「教員研究論文」)

中村秀之 (2015) 「ゆく者を送るまなざし——高峰秀子と〈顔〉の時間」、『ユリイカ』47 巻 6 号、117-124 頁、2015 年 4 月

<総説・解説記事>

中村秀之 (2016) 「ブックガイド——中村秀之『敗者の身ぶり——ポスト占領期の日本映画』」、『表象』10 号、表象文化論学会、304 頁、2016 年 3 月

中村秀之 (2015) 「ヤミ市映画。空想の映画祭のために。」、『東京人』30 巻 11 号、88-91 頁、2015 年 9 月

■中山真里子

<論文> 査読有

Nakayama, M., Kinoshita, S., & Verdonschot, R. G. (2016). The Emergence of a Phoneme-Sized Unit in L2 Speech Production: Evidence from Japanese-English Bilinguals. *Frontiers in Psychology*, 7:175. doi: 10.3389/fpsyg.2016.00175

Lupker, S. J., Nakayama, M., & Perea, M. (2015). Is there phonologically based priming in the same-different task? Evidence from Japanese-English bilinguals. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, 41, 1281-1299.

Lupker, S. J., Perea, M., & Nakayama, M. (2015). Noncognate translation priming effects in the same-different task: Evidence for the impact of “higher-level” information. *Language, Cognition, and Neuroscience*, 30, 781-795.

Ida, K., Nakayama, M., & Lupker, S. J. (2015). The functional phonological unit of Japanese-English bilinguals is language dependent: Evidence from masked onset and Mora priming effects. *Japanese Psychological Research*, 57, 38-49.

<学会発表> (国際学会)

Nakayama, M., Ida, K., & Lupker, S. J. Cross-script L2-L1 noncognate translation priming in lexical decision depends on L2 proficiency: evidence from Japanese-English bilinguals. Presented at the 56th Annual meeting of the Psychonomic Society, Chicago, the USA. November, 2015.



Lupker, S. J., Perea, M., & Nakayama, M. Conceptual and phonological priming in the masked prime same-different task. Presented at the 56th Annual meeting of the Psychonomic Society, Chicago, the USA. November, 2015.

<学会発表> (国内学会)

戸澤杏奈・松永美希・中山真里子・熊野宏昭. 日本語版 Work-related Acceptance and Action Questionnaire の作成. 日本認知・行動療法学会第41回大会, 宮城, 2015年10月.

吉原将大・中山真里子・日野泰志. 漢字熟語の音読における語頭音プライミング効果. 日本心理学会第79回大会, 名古屋, 2015年9月.

吉原将大・中山真里子・Rinus Verdonschot・日野泰志. 漢字熟語の音読における処理単位. 第18回認知神経心理学研究会, 東京, 2015年8月.

■小口孝司

<論文>

川久保惇・林田明子・小口孝司 (2016). ネイルケアが女性の心理に及ぼす影響  
ビューティビジネス学会 ビューティビジネスレビュー, Vol.4, No.1 (印刷中)  
(査読あり)

川久保惇・小口孝司 (2016). 自己開示と対人ストレスが抑うつに及ぼす影響  
立教大学心理学研究, 58, 13-22. (査読あり)

川久保惇・小口孝司 (2015). 余暇における他者との交流が主観的幸福感および抑うつに  
及ぼす影響 ストレス科学研究, 30, 69-76. (査読あり)

小口孝司 (2015). 特集：今求められる、こころを軽やかにするツーリズム 観光研究,  
27(1), 6-7.

小口孝司 (2015). メンタルヘルスツーリズム導入の意義と効果 観光研究, 27(1), 8-12.

小口孝司 (2015). 特集の総括 観光研究, 27(1), 37-38.

<書籍>

三浦由美子・小口孝司 (2015). 社員のメンタル・ヘルスをサポートする EAP  
(従業員支援プログラム) 土肥伊都子(編)『自ら実感する心理学』保育出版社, 102.

<学会発表>

Oguchi, T., Abe, K., & Sugai, K. (2015). Giving confectionary souvenirs and taking pictures makes tourists happy. Proceedings of the 5th Advances in hospitality & tourism marketing and management (AHTMM) conference, 530-532. (June, Beppu, Japan: Oral presentation) (The Best Paper Award) (査読あり)

Kawakubo, A., Kasuga, M., Ito, K., Komaza, M., & Oguchi, T. (2015). Effects of short-stay vacation on the mental health of Japanese employees. *21th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference Proceedings*. (10 pages) (May, Kuala Lumpur, Malaysia: Oral presentation)

(The Best Paper Award; Dr. HaiSikSohn Award) (査読あり)

Yamaguchi, K. & Oguchi, T. (2015). Effects of International Service on Customer Satisfaction and Loyalty Behavior at Japanese Resorts. The International Coastal and Marine Tourism Congress (12<sup>th</sup> November, Hawaii (Kailua-Kona), USA: Oral presentation) (査読あり)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2016). Examining the Effects of Response Styles on Depression Among Japanese Adults, The 17th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. (January, San Diego, California, USA) (査読あり)

山口一美・小口孝司 (2015). リゾートにおける対人サービスが顧客満足度、ロイヤルティ行動に及ぼす影響 日本観光研究学会総会 日本観光研究学会第30回大会発表論文集, 371-372. (5月, 立教大学, 埼玉)

山口一美・岡田美奈子・小口孝司 (2015). 半構造化面接からみた休暇が企業に及ぼす効果 第30回日本観光研究学会全国大会論文集, 133-136. (11月, 高崎経済大学, 群馬)

川久保惇・小口孝司 (2015). 新たな職業的自尊心尺度の作成および妥当性の検討 日本社会心理学会第56回大会発表論文集, 56, 211. (10月, 東京女子大学, 東京)

川久保惇・笠原亮多朗・小口孝司 (2015). ネイルは化粧を超えるか? 日本心理学会第79回大会発表論文集, 1260. (9月, 名古屋国際会議場, 愛知)

小口孝司 今求められる、こころを軽やかにするツーリズム 日本観光研究学会 2015年度総会シンポジウム企画・実施 (5月, 立教大学, 埼玉)

<その他>

大江靖雄・小口孝司・海津ゆりえ・寺崎竜雄・久保田美穂子 (2016). アジアにおける観光研究の動向 観光文化, 228, 2-11.

■大石幸二

<論文> (査読あり)

渡邊孝継・須藤邦彦・大石幸二 (2015). 広汎性発達障害児における聞き手の視覚と聴覚における情報処理の可能性に応じたモダリティの選択—視覚・聴覚・触覚の3種類の伝達手段を通して—. 臨床発達心理実践研究, **10(1)**, 59-67.

大石幸二 (2015). 自閉症児の表情認知の研究—顔図形と顔写真に対する反応の分析—.

人間関係学研究, **19(2)**, 37-43.

大石幸二・赤塚正一 (2015). わが国における障害のある子どもの就学期の移行支援—  
継続的な相談・支援の基盤を整備するための課題—. 人間関係学研究, **19(2)**, 55-67.

Nishiyama, K., Oishi, K., & Saito, A.(2015). Passersby attracted by infants and mothers'  
acceptance of their approaches: A proximate factor for human cooperative breeding.  
*Evolutionary Psychology*, **13(2)**, 1-23.

大石幸二 (2015). わが国における教員の職能発達を支える現職研修の課題. 人間関係  
学研究, **20(1)**, 29-36.

<著書> (翻訳を含む)

大石幸二監訳 (2015). 先生とできる場面緘黙の子どもの支援. In Kearney, C. A.(20  
10) *Helping Children with Selective Mutism*. Oxford University Press: London. 学苑社

大石幸二 (2015). ケースで学ぶ行動分析学による問題解決. 日本行動分析学会編 (山  
本淳一・武藤崇・鎌倉やよい責任編集), 金剛出版, Pp. 158-165.

矢野善教・大石幸二 (2015). スクールソーシャルワーク実習技術—認定社会福祉士・  
認定精神保健福祉士のための実習・演習テキスト. 米川和雄編, 北大路書房, Pp.  
133-135.

<学会発表> (国際学会)

Waki, T., Oishi, K., & Suto, K.(2015). Training consultant in behavioral consultation:  
Acquisition of behavioral consultation skills and clinical skills. *Eighth International  
Conference of Association for Behavior Analysis, Poster Session #65(46)*.

<寄稿> (学会誌以外)

大石幸二 (2016). 外部専門家による訪問型の学校・教員支援 (巡回相談) とユニバー  
サルデザイン. 阿部利彦責任編集, 『児童心理』2016年 1月号別冊 (1,016号)「通  
常学級のユニバーサルデザインと合理的配慮」金子書房, Pp. 150-154.

大石幸二 (2016). 確かな学力と自立する力の育成—万人のための教育の実現に向けて  
—. 埼玉教育 (巻頭言), 2015年度第5号, Pp. 2-3.

## ■鈴木清重

<受賞>

日本アニメーション学会賞 2015 特別賞

(授賞式: 日本アニメーション学会第17回大会: 横浜国立大学, 平成27年6月)

大山 正 (著)・鷺見 成正 (著・DVD制作)・五十嵐 賢紘 (DVD制作)・鈴木 清重 (映

像制作・素材提供) (2014). 見てわかる視覚心理学 新曜社 148頁 初版発行:平成26年4月20日

<論文> 単著 査読なし

鈴木 清重 (2015). 映像体験の記述と理論構築に関する実験心理学的研究——映像環境の「モニタージュ」と「ゲシュタルト」—— Image arts and Sciences: 日本映像学会報, 172, 22. 平成27年10月

鈴木 清重 (2015). 「できごと」をつくるアート/時系列のデザイン——映像心理学を応用する試み—— 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年度~27年度)2014年度(平成26年度)研究成果報告書(2015年12月改訂版, pp. 25-29) 立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所 平成27年12月

鈴木 清重 (2016). 映像環境の「モニタージュ」と「ゲシュタルト」 Psychology 2015: 桑沢デザイン研究所心理学研究ゼミナール2015年度活動成果報告書, 通巻第8号, 18-19. 平成28年3月

鈴木 清重 (2016). 映像生態学とは何か——映像の制作と鑑賞に関する実験的研究およびフィールドワークに基づく理論的考察——文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年度~27年度)2015年度(平成27年度)研究成果報告書(pp. 25-41) 立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所 平成28年3月

<学会口頭発表> 単著 査読あり

鈴木 清重 (2015). 映像体験の記述と理論構築に関する実験心理学的研究——映像環境の「モニタージュ」と「ゲシュタルト」——日本映像学会第41回大会(京都造形芸術大学) 平成27年6月

<学会口頭発表> 単著 査読なし

鈴木 清重 (2015). 「おべんとう絵本」の事象知覚に関する実験心理学的研究(2) 日本アニメーション学会第17回大会(横浜国立大学) 平成27年6月

<学会研究会口頭発表>

鈴木 清重 (2016). 知覚心理学に基づく心理学的「表現論」の可能性 第49回知覚コロキウム(日本基礎心理学会・東北大学心理学研究室) 平成28年3月

<公開講演会>

鈴木 清重 (2016). 映像生態学とは何か——映像の制作と鑑賞に関する実験的研究およ

びフィールドワークに基づく理論的考察——文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年度～27年度) 2015年度(平成27年度)公開講演会(立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所) 平成28年3月

<作品>

- 鈴木 清重 (制作・撮影・編集) (2016). 『傾斜箱実験装置の動作模型』(動画像作品β版) Invisible College 映像制作研究会 共同制作 平成27年6月
- 鈴木 清重 (制作・撮影・編集) (2016). 『C-1型累積記録器の動作模型』(動画像作品β版) Invisible College 映像制作研究会 共同制作 平成27年6月
- 鈴木 鉄男 (制作・撮影・編集)・鈴木 清重 (撮影) (2015). 『美司流 第十一回創作舞踊発表会 晴菊会』(DVD- Video) スタジオアイアンベル 共同制作 平成27年6月
- 鈴木 鉄男 (制作・撮影助手・照明助手)・蔵原 これむつ (監督・撮影・照明・編集)・瀬戸 龍哉 (出演・殺陣)・鈴木 清重 (撮影助手・照明助手) (2015). 『道』(時代劇プロモーション映像) スタジオアイアンベル (京都映画企画市 -Kyoto Film Pitching- プレゼンテーション審査上映作品) 共同制作 平成27年9月
- 鈴木 清重 (制作・撮影・編集) (2015). 『文京つつじ祭』(動画像作品β版) Invisible College 映像制作研究会 単独制作 平成27年11月
- 鈴木 清重 (制作・撮影・編集) (2016). 『おべんとう絵本 発表会 2015年12月11日』(動画像作品) Invisible College 映像制作研究会 単独制作 平成28年1月
- 吉村 浩一 (制作・構成・撮影・編集)・箱田 裕司 (出演・解説)・鈴木 清重 (構成・演出・撮影) (2016). 『九州帝国大学法文学部 旧心理学教室の建物』(動画像作品) 「九州帝国大学旧心理学教室」記録映像製作委員会 共同制作 平成28年2月
- 向後 敬 (構成・作詞・作曲・演奏)・朽木 俊典 (作詞・作曲・演奏)・鈴木 清重 (録音) (2016). 『Acoustic Live: Last chance "生きよ"』(音源記録DVD) Office KEI & Invisible College 共同制作 平成28年3月
- 鈴木 清重 (制作・撮影・編集) (2016). 『映像生態学プロジェクト最終成果報告会 2015年6月6日』(動画像作品) 立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所 単独制作 平成28年3月

■都築誉史

<受賞>

2014年度・日本認知科学会・奨励論文賞

千葉元気・都築誉史 (2014). 多属性意思決定における妥協効果と魅力効果の生起機序に

関する包括的分析:生理学的指標と眼球運動測定に基づく実験的検討 『認知科学』, **21**, 451-467.

→授賞式は、2015年9月19日 日本認知学会・第32回大会内(会場:千葉大学)にて行われた。

<論文など>

都築誉史・松田憲 (2015). 特集「判断と意思決定の認知科学」編集にあたって 『認知科学』, **22**, 308-314. (査読無し)

→『認知科学』, **22** 特集エディタを務める (11論文を採択)

千葉元気・都築誉史 (2015). 奨励論文賞受賞にあたって 『認知科学』, **22**(4). (査読無し)

<国際学会報告>

Tsuzuki, T., Takeda, Y., & Chiba, I. (2015). Context effects in multi-alternative decision making and the N1 amplitude elicited by task irrelevant auditory probes. *Abstracts of the Psychonomic Society*, **20**, 1192. (査読有り ; Chicago, USA)

Tsuzuki, T., & Chiba, I. (2015). A time-series attribute-and-alternative-wise saccades analysis of the attraction and compromise effects in multi-alternative decision making. *Abstract of the 36th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.1-139. (査読有り ; Chicago, USA)

Chiba, I., Tsuzuki, T., & Hashiguchi, S. (2015). Eye-tracking analysis of compromise and attraction effects in perceptual decision making. *Abstract of the 36th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.1-140. (査読有り ; Chicago, USA)

Ohkawa, T., & Tsuzuki, T. (2015). Factors affecting communication style preferences: SNS versus face-to face and individual versus group. *Abstract of the 36th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.1-75. (査読有り ; Chicago, USA)

<国内学会報告>

都築誉史・武田裕司・千葉元気 (2015). 多肢選択意思決定における文脈効果と事象関連電位:課題非関連聴覚プローブに対するN1振幅に基づく検討 『日本心理学会第79回大会発表論文集』, 673. (名古屋国際会議場)

都築誉史・千葉元気 (2015). 眼球停留時間の時系列解析による多肢選択意思決定における類似性相乗効果の検討 『日本認知心理学会第13回大会発表論文集』, 26. (東京大学)

川合裕基・都築誉史・千葉元気 (2015). 囚人のジレンマ課題の同時呈示による文脈効果 『日本心理学会第79回大会発表論文集』, 650. (名古屋国際会議場)

■山田哲子

<論文> (査読あり)

山田哲子(2015).知的障がいのある子どもを緊急に親元から離すプロセスとは - 在宅ケアを望んでいた親の施設利用に焦点を当てて - 質的心理学研究,14,128 - 145

<論文> (査読なし)

山田哲子 (2015) . 親亡き後を視野に入れた知的障がい者家族支援の構築の試み. 日本精神衛生学会「心と社会」161 -

<学会等での発表>

山田哲子 (2015) . 家族を対象とした「成人知的障がい者の将来の生活場所」に関する心理教育プログラムの試行実践. 日本発達心理学会第26回大会論文集, P1-031

山田哲子 (2015) . 成人知的障がい者の将来の生活場所の選択・決定を叶えるための家族支援とは 日本心理学会第79回大会発表論文集

曾山いづみ・大瀧玲子・大西真美・本田麻希子・村田千晃・山田哲子・渡辺美穂・青木聡・藤田博康・小田切紀子・福丸由佳 (2015) . 離婚を経験した家族へのFAITプログラムの試行実践 (5) 一行政と連携した離婚家庭への支援：明石市における試行実践から一 日本家族心理学会第32回大会発表論文集

■安田みどり

<論文> (査読なし)

安田みどり (2015) 心理臨床実践におけるコンサルテーション：学校領域からの報告 (特集 コンサルテーションの理論と実際：さまざまなモデルと多様な現場における実践) コミュニティ心理学研究, 18(2), 205-213